

腎細胞癌の精索転移の1例

和歌山赤十字病院泌尿器科 (部長: 桐山 酋夫)

日裏 勝, 武縄 淳, 龍治 修, 滝 洋二
林 正, 桐山 酋夫A CASE OF METASTATIC TUMOR OF SPERMATIC CORD
FROM RENAL CELL CARCINOMAMasaru HIURA, Jun TAKENAWA, Osamu RYOJI,
Yoji TAKI, Tadashi HAYASHI and Tadao KIRIYAMA
From the Department of Urology, Wakayama Red Cross Hospital

A 51-year-old man was admitted with the complaint of left scrotal swelling (11×5×5 cm). He had undergone left nephrectomy and removal of tumor thrombus in inferior vena cava due to renal cell carcinoma. Nine months after the nephrectomy, left scrotal enlargement was noticed. Left high orchiectomy was performed on January 20, 1988. A clear cell carcinoma was present in spermatic cord and pampiniform plexus histologically but testis and epididymis were intact. Renal cell carcinoma seemed to disseminate retrogradingly through the spermatic vein to spermatic cord. The metastatic tumor of spermatic cord from renal cell carcinoma is very rare and this case is the fifth case in the Japanese literature.

(Acta Urol. Jpn. 35: 1021-1024, 1989)

Key words: Spermatic cord, Metastatic tumor, Renal cell carcinoma

緒 言

転移性精索腫瘍は頻度の少ない疾患であり、とくに腎細胞癌を原発として、精索に転移するものは、きわめて稀である。今回われわれは、左腎細胞癌を原発とする転移性精索腫瘍の1例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者: 51歳, 男性

主訴: 左陰嚢内腫瘍

既往歴: 1977年, 虫垂切除術

家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1987年1月, 無症候性血尿あり。精査の結果, 左腎腫瘍・下大静脈腫瘍塞栓・両側肺転移が認められ, 1987年2月27日経腹膜左腎摘出術および下大静脈腫瘍塞栓摘出術を施行 (Fig. 1, 2)。左腎細胞癌 grade 2, pT3V2N0M1 と診断した。術後, インターフェロン投与および化学療法を行い, 同年7月退院となる。11月より左陰嚢内の腫瘍と疼痛が出現し, 増大傾向を認めたため, 1988年1月再入院となる。

入院時現症: 体格栄養中等度, 体温 36.2°C, 脈拍正, 血圧 152/90 mmHg, 胸部・腹部は異常を認めない。外陰部は左外鼠径輪より精索の充実性腫大を認める。左陰嚢内は, 11×5×5 cm に腫大し, 熱感と圧痛が軽度認められる。

入院時検査成績: 血沈 1 時間値 136 mm, 2 時間値 156 mm, 一般検血・血液生化学的検査は正常範囲内, 出血傾向なし, 尿検査異常なし, IAP 963 µg/ml, ferritin (RIA) 580 ng/ml, X線検査所見: 胸部X線写真において, 両肺野に小さな多発性転移を認める。

超音波検査所見: 精索遠位側に不規則な形の腫瘍影あり。睾丸内部は所々壊死を思わせ, 睾丸周囲に液体貯留を認める (Fig. 3)。

以上より, 精索腫瘍の疑いにて, 1988年1月20日左高位睾丸摘除術を行なった。内鼠径輪付近で肉眼的に正常となっている精索を結紮した。

摘出標本: 腫瘍は淡黄色, 充実性でやや硬く, 精索より発生していた。副睾丸は大部分が正常所見で, 睾丸は, うっ血と壊死が認められた (Fig. 4)。

病理組織学的検査: 腫瘍は, 以前摘出した腎腫瘍組織と同一の淡明細胞より成っており, 所々異型性の強

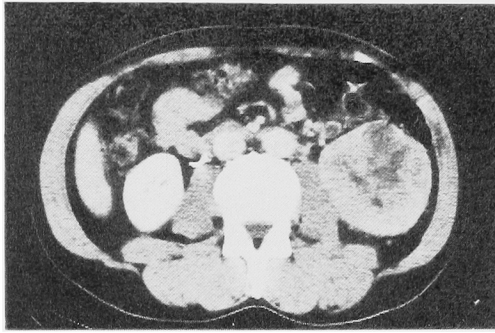


Fig. 1. CT scan revealed left renal tumor.

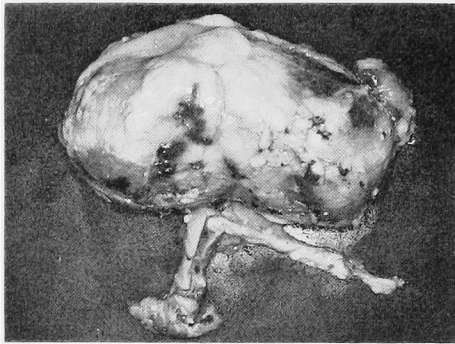


Fig. 2. Gross appearance of the removed specimen: left renal tumor and tumor thrombi in inferior vena cava and spermatic vein



Fig. 3. Sonography showed high density mass in spermatic cord.

い核も見られ、全体が胞巣状の構造をとっていた。また、腫瘍より近位部の蔓状静脈叢内に同一の腫瘍細胞が認められた (Fig. 5)

以上の所見により、左腎細胞癌の左精索転移と診断

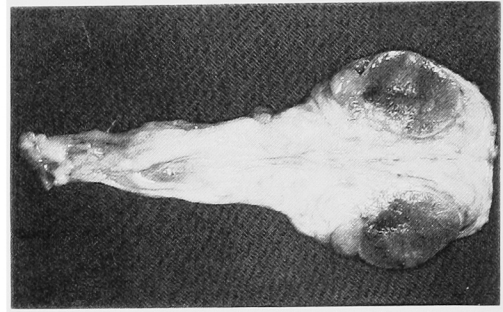


Fig. 4. Gross appearance of left scrotal contents

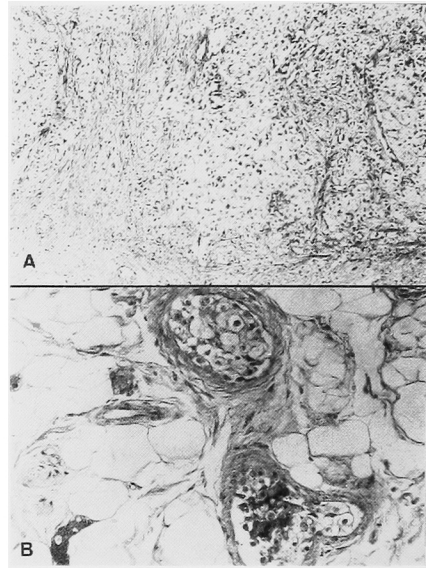


Fig. 5. A; Microscopic appearance demonstrated clear cell carcinoma (H.E.).

B; Tumor cells were showed in pampiniform plexus of spermatic cord (H.E.)

Table 1. Metastatic tumors of spermatic cord in Japanese literature

原発腫瘍	胃 癌	19例 (50.0%)
	腎 癌	5 (13.2)
	脾 臓 癌	4 (10.5)
	S状結腸癌	3 (7.9)
	直 腸 癌	1 (2.6)
	盲 腸 癌	1 (2.6)
	胆 嚢 癌	1 (2.6)
	睾丸腫瘍	1 (2.6)
	尿管腫瘍	1 (2.6)
	不 明	2 (5.3)
	計	38
平均年齢	54.8 歳	
転 移 側	右	19例 (50.0%)
	左	15 (39.5)
	両 側	4 (10.5)

Table 2. Metastasis of scrotal contents from renal cell carcinoma in Japanese literature

発表年	報告者	年齢	原発側 (TNM分類)	転 移 (大きさ)	他の転移	予 後
1984	大森ら	49	左 腎 (pT3V1bNoMo)	左精索 (3.3×1.6cm)	なし	不明
1984	比嘉ら	68	右 腎 (pT2bV1NxM1)	*右精索 (超鶏卵大)	肺	12M
1984	加藤ら	45	左 腎	*左精索・副辜丸	右腎 肺	1.5M
1986	石塚ら	71	左 腎 (pT3VoN3Mo)	左辜丸・副辜丸 (12×3.5×3cm)	肝	4M後に 骨転移
1988	入澤ら	54	左 腎 (pT2bVoNxM1)	*左精索 (2.5×1.7×0.8cm)	肺	3M

* 原発巣に先行して発見されたもの

した。なお、再入院時より肺転移巣の増大傾向が認められたが、全身状態は良好で、現在外来にて治療中である。

考 察

精索の悪性腫瘍は稀で、転移性腫瘍はさらに少ないとされている。本邦において、主として精索に転移を来した症例の集計は、別宮ら¹⁾、瀬口ら²⁾、大森ら³⁾のものがあり、それ以降のものについて今回われわれの集計しえた症例を加えると、自験例を含め38例があった (Table 1)。年齢分布は、35～79歳、平均54.8歳で、患側は右が19例、左が15例、両側4例であった。原発腫瘍は胃癌が19例と半数を占めている。次いで多いのが、腎癌、脾臓癌、S状結腸癌となっており、消化器系腫瘍が全体の76%を占めている。欧米の報告でも、消化器系腫瘍によるものが、62～85%となっているが、前立腺癌よりの転移が多いのが本邦と異っている^{4,5)}。また、精索の転移性腫瘍は病期の末期に発生することが多く⁶⁾、その予後は悪い。しかし、その53%が原発巣に先行して精索転移が発見されている⁷⁾。

腎細胞癌から、精索・副辜丸・辜丸など陰嚢内臓器への転移も、きわめて稀である。Saitoh⁸⁾によると、腎細胞癌1,451例の剖検のうち89%の1,293例に転移があり、転移臓器は、肺 (76%)、リンパ節 (66%)、骨 (42%)、肝 (41%)、対側腎 (23%)、同側副腎 (17%) などとなっているが、陰嚢内への転移例は報告されていない。de Riese ら⁹⁾は、腎細胞癌よりの陰嚢内転移を18例報告している。また、本邦では5例の報告があり (Table 2)、本例は6例目で、精索への転移に限ると5例目である。年齢は45～71歳とさまざまであり、原発巣に先行して発見されたものが3例あり、陰嚢内転移が認められた時点ですでに他臓器への転移

が確認されているものが、5例中4例あり、予後もきめて不良である。自験例はすでに肺転移があり、左腎摘出術後9カ月で精索転移が認められた。また、2例に左精索静脈瘤が見られているが、本例はなかった。

腎細胞癌から陰嚢内臓器への転移経路について、高井ら¹⁴⁾は(1)精巣動脈を通る血行性転移、(2)静脈逆行性転移、(3)リンパ逆行性転移、以上の可能性を述べている。本邦報告5例のうち、静脈逆行性と考えられたもの3例^{3,10,13)}、血行性転移1例¹²⁾、リンパ逆行性1例¹¹⁾であった。本症例は(1)静脈内腫瘍塞栓が左腎静脈を介して精巣静脈内にまで認められたこと、(2)病理組織において、蔓状静脈叢内に腫瘍細胞が充満していたこと、などより、左腎静脈より精巣静脈を通る静脈逆行性転移が考えられる。

結 語

51歳の男性で、左腎細胞癌にて左腎摘術後9カ月目に左精索へ転移を来した症例を報告した。転移経路として静脈逆行性が考えられた。

本論文の要旨は日本泌尿器科学会第123回関西地方会において発表した。

文 献

- 1) 別宮 徹, 井口正典, 坂口 洋, 奥田 暲: 胃癌を原発とする転移性精索腫瘍の1例. 泌尿紀要 22: 871-875, 1976
- 2) 瀬口利信, 小出卓生, 武本征人, 松田 稔, 佐川 史郎, 中尾量保, 奥田 博: 消化器癌を原発とする転移性精索・副辜丸腫瘍の2例. 泌尿紀要 26: 1427-1433, 1980
- 3) 大森正志, 横田武彦: 腎癌を原発とする転移性精索腫瘍の1例. 臨泌 38: 725-727, 1984
- 4) Monn L and Poticha SM: Metastatic

- tumors of spermatic cord. *Urology* **5**: 821-823, 1975
- 5) Algaba F, Santaulatia JM and Villavicencio H: Metastatic tumor of the epididymis and spermatic cord. *Eur Urol* **9**: 56-59, 1983
- 6) 桐山菅夫: 他臓器腫瘍の尿路性器に及ぼす影響, または続発性尿路性器腫瘍. 新臨床泌尿器科全書, 市川篤二・落合京一郎・高安久雄編, 第1版, 第7巻B, pp. 333-353, 金原出版, 東京, 1983
- 7) 影山幸雄, 藏 尚樹, 山田拓己, 根岸壮治: 睪癌の精索転移. *臨泌* **42**: 273-275, 1988
- 8) Saitoh H: Distant metastasis of renal adenocarcinoma. *Cancer* **48**: 1487-1491, 1981
- 9) de Riese WH, Warmbold H and Aeikens B. Intrascrotal metastases from renal cell carcinoma. *Int Urol Nephrol* **18**: 449-452, 1986
- 10) 比嘉 功, 金山博巨, 宇山 健: 転移性精索腫瘍の1例. *日泌尿会誌* **76**: 163-164, 1985
- 11) 加藤幹雄: 左精巣に転移をきたした両側腎腫瘍の1例. *共済医報* **33**: 215, 1984
- 12) 石塚 修, 吉村 明, 竹崎 徹, 市川碩夫: 腎癌の睾丸, 副睾丸転移の1例. *臨泌* **40**: 67-69, 1986
- 13) 入澤千晴, 胡口正秀, 深谷保男, 山口 脩: 精索転移をきたした腎癌の1例. *泌尿紀要* **34**: 524-527, 1988
- 14) 高井修道, 小山達朗, 山下源太郎, 垂水 泰: 転移性精索腫瘍. *札幌医誌* **16**: 481-489, 1959
- (1988年6月21日受付)